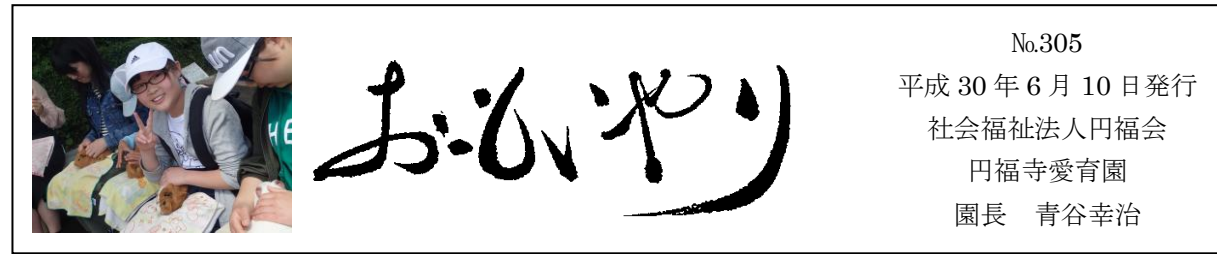


ゴールデンウィークに群馬サファリパークに行ってきました。モルモットは可愛かったです。



心の養育

理事長 藤本光世

園長から、今年度中学に入学した4名の子どもたちの中間テストの報告を受けた。どの子どもも高得点で、昔の愛育園の子どもたちでは考えられないことであった。児童養護施設で子どもの学力をつけることは、とっても大切である。今の世の中で学力があればそれは自己の人生を切り拓く、自立のための武器になる。力になる。学力がない子が人生を切り拓けないとは言わない。しかし、学力があることはそれだけ人生の展望が開ける。だから、子どもに学力をつけることは児童養護施設の使命でもある。私は、園長の報告を受けて、当園の養育は間違っていないし、その成果が結果として表れたと思った。

ほとんどの親は、子どもに高得点を取らせるために、塾へ行かせたり、勉強をしない子を叱咤激励してさせたり、そんな方法をとるのではないだろうか。愛育園の養育は、それよりももっとも大切なのが心の養育であることを結果として示している。このようなことを事実として示している家庭や児童養護施設や組織があるだろうか。愛育園で示したこの事実はとっても凄いことだと思う。

昔の愛育園の子どもたちの関心は、施設の中でよい立ち位置をとることだった。子どもたちにとって生活のすべては力である。力の弱い子は、力の強い子にこびへつらわなければ生きていけない。何しろ、子どもにとって一番怖いのは先生ではなくて、四六時中一緒にいる子どもなのである。施設の子にとって安心安全な生活空間とは、こびへつらわなくても生活できる空間である。ところが、施設で放任された子どもたちは、心が弱く心が傷つけられていることが相俟って、弱い子をいじめるのである。いじめることで自己の心を満足させるのだ。だから放って置かれた子どもは、いかにして強い子にこびへつらい、いじめられないようにし、弱い子をいじめ、先生方に反抗し、自由にふるまえる生活空間を拓げるかに精神を集中して、とても自己を高めるとか夢に向かって頑張るとか、そんな心にはならない。授業中も、授業を妨害し、羽振りをかかせ、勉強しようとする子を馬鹿にして、自分の生き方を正当化しようとする。こんな状況だから、学力など伸びるはずがなくて、500点満点の100点以下あるいはその程度しか点数は取れない子がほとんどだった。

どうして今年のような結果が生じたのであろうか。一つは、円福寺愛育園の生活が子どもたちに

とって安心できる、安全な空間となったことである。いわゆる力のピラミッドが無くなった。力のピラミッドに進みそうな些細な兆候も見逃さず指導できる職員が育ったことである。二つめは、夢の実現を言い続けていることである。子どもに夢を持たせ、それが実現できることを話し、あらゆる機会を使って夢を語りかけていることである。三つめは日課の充実である。おまわりを中心とした規則正しい生活、規則正しい生活習慣が定着して、質があがっているからである。四つ目は子どもの心を満たすたくさんの行事を切れ目なく設定していることである。そしてその行事に対して全力で取り組ませているからである。俗人閑居して不善を為す。子どもを暇にはしてはいけない。それには職員が暇であってはいけない。職員は常に創造しなければならない。それが定着してきている。昔の男性職員は、職員室に坐ってパソコンに向かって何やらやっているそぶりを見せていた。保育士からは不評でもっと子どもと共にあってほしいと、いろいろな場面で苦情が聞かれた。そんなものは何のそので一向に改善されなかった。今はそんな職員は一人もいない。

しかし、これらのことは努力を続けなければ一気にほころぶ。私が子どものころのおまわりで、父からデンマークの子どもの話を聞いた。デンマークの土地は海面下にある。海水から堤防で土地を守っている。その堤防の一角から海水が漏れていた。放って置けば水の穴は大きくなり、堤防は決壊してしまうだろう。それを見抜いたその子は、脱いだ上着を巻き付けた腕をその穴に突っ込み、穴をふさいだ。そして、一晩中あるいは人が見つけてくれるまで穴をふさぎ続けたのである。子どもは気を失ったかあるいは死んでしまったのであろうか。しかし堤防は守られた。多くの人の命が救われた。この話を聞いたとき、私は小さなほころびがいかに恐ろしいかを心に叩き込んだ。だから、愛育園も小さなほころびを見逃してはならない。それぞれの職員は小さなほころびがなされないように心をしっかりさせるとともに、他の職員の小さなほころびを指摘しなければならない。これが開かれた職場である。勤務年数の長短は無関係である。新しい職員だからこそ、指摘できることがある。おかしいなと思ったら、それを言うことである。言えない職場は閉ざされていて、大きな事故が起きて初めて気づく。そんな職場であってはいけない。今年度、愛育園は大勢の新任職員を迎えた。それぞれの職員が、「このくらいいいだろう」「大したことは無いだろう」「誰も見ていないや」などという心のほころびを無くし、心のほころびを言い合い、子どもたちのために働いてほしい。

ヒマワリの種蒔き

園長 青谷幸治

今年も当園で、ヒマワリの種蒔きの時期がきました。思えば東日本大震災から7年。宮城県石巻市の大川小に通う小学生が犠牲になり、その子の祖母の被災したお宅の庭でヒマワリが咲き「孫が帰って来てくれた」という記事を震災の翌年に知り、私自身すぐにヒマワリの種を取り寄せ、園の子どもたちと種を植え、ヒマワリをたくさん咲かせ続けてから6年になります。

東日本大震災の日、私は自宅で過ごしていました。地震発生後、TVに釘付けになっていました。悲惨な光景をただただ見ているだけで、何もできない自分の小ささと情けなさを感じました。しかし自分にも何かできないか？園の子どもたちと何かできるのではないか？そう思い続け、たどり着いたのが「長野の地で復興のヒマワリを咲かす」ことでした。愛育園から復興のヒマワリを咲かせ、その種を全国の皆さんに広げ、ささやかではありますが震災を忘れない、そして亡くなった方々のご供養になればと始めました。愛育園では毎年、子どもたちとたくさんのヒマワリを咲かすことができていましたが、その種をたくさんの方々に届けることができませんでした。しかし、昨年愛育園の協力者でもある牛山さんの紹介もあり、福島県でヒマワリ里親プロジェクトの存在を知りました。まさに私が思い描いていたヒマワリを咲かせ、その種を全国の皆様に届け、全国各地でヒマワリを咲かせる。そして、その種を福島に返すというプロジェクトでした。先日もヒマワリ講演会に子どもたちと参加してきました。ヒマワリを通したご縁をいただき、また今年もヒマワリの種を蒔きます。石巻のヒマワリと福島のヒマワリ。子どもたちと太陽に伸びるように大きく育て、復興のシンボルにしていきたいと思えます。そして、子どもたちの情操教育の一環になればと思えます。秋には種を取ります。福島の種は、福島に里帰りしますが、石巻の種はぜひ多くの方々の手に渡り、また来年一緒にヒマワリを咲かせてもらえることを願っています。

牛に引かれて善光寺詣り

あおぞら保育士 佐々木 弘観

5月6日、牛に引かれて善光寺参りというウォーキングイベントに参加してきました。今年で4回目の参加となります。朝早くから戸倉上山田の温泉街をスタートし、川沿いのサイクリングロードを歩いていきます。この行事は中学生以上の参加にしていますので、昨年小学6年生だった子達は初めての参加となります。30Km以上の道のりに不安もあったようですが職員含めて全員無事に歩ききりました。中学生以上の子ども達は部活に進学に向けての勉強、アルバイトとそれぞれ忙

しい毎日を過ごす子どもが増えてきています。また、新年度も始まったばかりですので高校へ進学した子は環境が変わり、ようやく学校に慣れ始めてきた頃、中学生になった子は生活リズムが変わり、部活に参加した子は疲れが見え始めてくる頃です。この行事はそんな子ども達と話す時間が沢山あり、部活の事や学校の事、友人の事などたくさん話をする事ができ、みんな毎日頑張っているの



がとても伝わってきました。今年は先頭で歩く子が沢山いました。ただ、先頭のペースが例年以上にとっても速く、小走りするようなペースで進んでいきました。30キロともなると、非常にきついのですが、きつい・・・と諦める子は一人もおらず、最後まで歩ききる！と辛い中でも前向きに明るくて楽しんで参加していました。日々目標を持って生活しているからこそ、辛い中でも頑張る子どもが増えてきている事を感じました。今年度もスタートしたばかり。目標を持って、今後も子ども達と元気に過ごしていきたいと思えます。

「牛に引かれて善光寺詣り」

倉島 誠



5月6日に初めての円行事「善光寺30kmウォーキング」へ参加させて頂きました。天候にも恵まれ、晴天の中、木々の緑がとても綺麗に感じ、時折吹く風がとても心地よく感じました。私自身、30kmという距離を「歩く」という経験が無く、大人でも厳しい道のりを子ども達が完歩することが出来るのかなと、少し不安に感じていました。しかし、いざスタートをしてみると、先頭を歩くのは、園の子達ばかりで、

とても速いペースにもかかわらず、しりとりをしたり、道端にいる毛虫を見て騒いだりと、誰ひとり辛そうな顔をせず、楽しそうに歩いているのを見て、すごいなと感心してしまいました。道中、私はカメラを持って、一生懸命歩いている子ども達の勇姿を収めるために必死だったのですが、ここで、Y君が「先生、俺も一緒に手伝うよ」と言ってくれ、先頭からほぼ最後まで一緒に何回も往復してくれました。とても嬉しかったですし、Y君の底なしの体力に驚きました。見ていたスタッフの方が、「まだまだ元気だな」「ウォーキングじゃなくてマラソンみたいだ」と声をかけてくれる程でした。最後までY君は元気で、みんなと一緒に善光寺まで辿り着くことができました。

今回、「牛に引かれて善光寺詣り」に参加してみて、普段見ることの無い子ども達のいきいきとした姿や汗を流して頑張る姿にとっても感動しましたし、一緒に頑張ってくれたY君に感謝したいなと思いました。

牛に引かれて善光寺詣り

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり

5月6日に、毎年恒例の「牛に引かれて善光寺詣り」に参加しました。私は、2回目の参加でし

た。1回目の時は、子ども達の体力が想像以上にあり、着いていくのに必死だったのを思い出します。2回目の今回は、子ども達と楽しみながら完歩したいな、という思いで、参加させて頂きました。今年は、中1のAさんと高3のSさんと一緒に歩きました。2人の学校での話や、他愛もない話はもちろん、それぞれが疲れてきた時に、励ましあう言葉掛けなど、私自身もすごく支えてもらったな、と思います。高3のSさんは、今までに4回も完歩しており、お昼以降は、先頭集団に着いていくほどの体力がありました。前日までは、完歩したことがあるとはいえ、「30km歩けるかな…」という不安があったようですが、先頭集団でゴール出来て、かなり達成感を味わえたようです。中1のAさんは、初めての30kmウォーキングで、後半はだいぶ疲れが溜まっていたので、私自身もかなり疲れが溜まっていたので、お互いに励ましあいながら、善光寺を目指しました。ゴールした時には、やはり達成感を味わうことが出来、「来年も歩きたい！」という言葉が聞けました。30kmを完歩するという事は、本当に大変なことです、怪我や事故無く、全員で完歩出来たことがとても良かったな、と思いました。

牛に引かれて善光寺詣り

まごころホーム保育士 有賀真知

私は、今回初めて善光寺ウォーキングに参加しました。私自身、30kmという道のりを歩いたことがないため、どのくらい長く、どの辺で疲れてくるのか、全く想像できないまま、ドキドキした気持ちで当日挑みました。出発後から10kmほどHさんと、今回初参加のAさんと一緒に歩きました。Hさんは普段部活等でなかなか話をする時間が取れていませんでしたが、第1チェックポイント



までの2時間弱、色々な話をする事が出来ました。最初は列の中盤あたりをゆったりとしたペースで歩いていましたが、子どもたちから「先頭で歩きたい！」という声があり、第1チェックポイントからは先頭を歩きました。Aさんは「先頭で歩くと、中盤で歩いていた時よりも楽！」と言って、第2チェックポイントまで楽しく歩いていました。第2チェックポイントでは園に残っていた小学生が応援をしに来てくれており、元気をもらいました。15kmほど歩いたところからだんだん身体が痛くなり、Aさんの表情も曇ってきました。しかし足を痛めながらも決して弱音を吐かず、「先生、もっと前に行こう！」と言うAさんの姿に私自身とても励まされ、無事善光寺まで歩き抜くことができました。子どもとたくさん話をしたり、子どもと一緒にやり遂げる喜びを感じたりすることができ、とても良い行事になりました。

牛に引かれて善光寺詣り 児童感想

5月6日に善光寺ウォーキングがありました。30km歩きました。初めて歩いたので大変だったけど、楽しく歩けたので、良かったです。最後の方が、足が痛くて大変だったけど、最後まで歩けることが出来たので良かったです。最初の方が、早く行き過ぎたので、来年は早く行き過ぎないようにしたいです。とても楽しく歩けたので良かったです。来年も頑張って歩きたいです。(中1・AO)

5月6日は、30kmの善光寺ウォーキングがありました。2回目で、歩ききれるか心配でしたが、先頭を保って歩けました。歩くのが早い人が先頭だった時は、ほぼ早歩きでとてもきつかったけど、有賀先生や橋本先生としりとりを永遠にしながら、頑張って30km歩ききれてとても嬉しかったです！！来年はもっと鍛えて楽しく歩きたいです。(中2・HW)

松本5時間リレーマラソン

主任指導員 富沢正樹

昨年、部門優勝を果たした「松本5時間リレーマラソン」に今年も参加してきました。

「今年も狙うは優勝！賞品のお米100kgを持ち帰って、みんなを喜ばそう」をテーマにメンバーは練習に励み、綿密な作戦を立て臨みました。「どんなチームが出てくるか分からないけど、自分たちのベストを尽くそう」という会話から始まって、日頃の練習タイムを元に、最終的に「一周1.2km、5分ペースで走って、5時間で60周という記録を狙おう」と目標を立てました。速い子は遅い子のタイムを補って、みんなのチームワークを大切に、目標を達成しようと前日に気持ちを一つにしました。

当日、この大会に並々ならぬ気合を込めた、中2のK君と中3のY君は1周1周ほとんどタイムが落ちずに、必死の形相で何度も走ってくれました。1周目は4分台で走っても徐々にきつくなるのが、このリレーマラソンです。それでも全力を緩めずに全力疾走して、毎回タスキを渡した後は、倒れ込み苦しそうにしているのに、「まだいけます。」と言ってくる姿は本当にカッコイイ姿でした。そして、その熱量はチーム全体に広がります。初参



加の高2のS君、中1のO君も「まだまだ行かせてください。」と後に続きます。職員も頑張ります。佐々木、近藤、倉島、宮原が、子どもがびっくりするくらいの速さと必死さでタスキをつないでいきます。みんなして、辛そうな顔で「次、自分行けます」と言うので、監督の私は、誰を出していいのか困ってしまう程でした。

必死に走る理由はもう一つありました。途中経過が随時見れるのですが、愛育園チームはスタート直後、部門3位でした。60周の目標を達成できればいいと思っていましたが、食欲に優勝を狙いたいメンバーは必死に食らいついていき、途中で2位に順位を上げる事ができました。1位のチームとはちょっと力の差があり、少しずつ離されていってしまったのですが、それでもあきらめることなく走り続け、最後には、大会直前にラグビー班の活動で肩を怪我してしまい、応援に回っていた高3のA君が「自分、行きます！」と、怪我を押して走り出すという、なんともすごい雰囲気になりました。

朝からの雨の影響で、3時間半までで終了になってしまいましたが、60周を上回るペースで走り、結果46周で準優勝という十分な結果でした。何よりも、必死になる事や、その雰囲気に入っている事、優勝は無理かも？という所から諦めずに走り切った事など、結果以上に子ども達の成長が見てとれた事が本当に嬉しかったです。

秋には、あずみのリレーマラソンにも参加する予定です！高い目標を持って本気で打ち込める。そんな日々の積み重ねを経て、また頑張っていきたいです。

松本リレーマラソン

主任保育士 石崎 早織

先日松本で行われた松本リレーマラソンに子どもと参加してきました。この大会に出る1か月前から毎日マラソン練習に励んでいた子ども達。日によってももちろんタイムは異なりますが、一秒でも早く走る事を目標に練習に取り組んできました。練習でベストタイムが出ると「先生～！今日は

〇秒早くなったよ！」とすごく嬉しそうに報告してくれる姿を見て、本気で取り組んでいる姿勢が伝わりました。私は小学生の部の監督をやらせて頂きました。小学生は3時間リレーになります。一周約1.2キロをどれだけ走れるかを競います。大会前日はミーティングを行い、みんなで力を合わせて、みんなのために走る！！を目標に当日を迎えました。トップバッターを務めてくれたR君は周りの大人に囲まれとて



も緊張しながらスタートを待っていましたが、スタートの合図とともに元気に走りだしました。そのおかげで次に続く子ども達も緊張しながらもいつも以上の力を出し、練習よりもいいタイムを次々に出していました。一秒でも無駄にならないようタスキを渡す時も全力疾走で最後まで力を抜かない姿に感動しました。結果は7位でしたが、前回の大会よりも11周多く走る事が出来た事は子ども達の自信や達成感に繋がったように思います。自分の力を試す場所があることは本当にいいことだと思います。今回の行事で味わった気持ちを毎日の生活に生かせるようにしていきたいと思っています。

みんなでつなぐ5時間リレーマラソン

あおぞらホーム 近藤誠志郎

5月13日、松本市のやまびこドームで開催された『みんなでつなぐ5時間リレーマラソン』に子どもたちと共に出場してきました。この日に向けて3週間練習を続け、いつも全力で走る子どもたちの姿を見て、大会当日を楽しみにしておりました。今年は世代混成・ファミリーの部にあおぞら、まごころでそれぞれ1チーム、小・中学生の部に小学生チームと合計3チーム出場してきました。私自身も昨年続きあおぞらチームの一員として出場させて頂きました。一周1.2kmのコースをタスキをつなぎながら5時間で何周走るかを競います。昨年はファミリーの部で優勝して副賞として米100キロを獲得しているので今年も優勝目指して大会に臨みました。大会当日は天気が悪く、スタートして30分ほどで雨が降り出してきて、走るには体力を奪われる厳しいコンディションとなりました。そんな中でも子どもたちはタスキを貰った途端にもものすごい勢いで走り出しており、「大丈夫かな、帰ってくるかな」と心配になりましたが、ふらふらになりながらも最後まで全力で走りきっていました。4周目、5周目となると疲れてしまい、ゆっくり走り出したくなるはずなのにチームのために最初から最後まで全力を出し続ける子どもたちの姿を見て、自分も頑張らないと、と思われました。小学生チームでは5年生のY君、R君が2周続けて走っており、一生懸命な姿を見ることができました。ファミリーの部では、練習でいつも歩いてしまっていた中学1年生のO君が5周も走りきっており、O君の底力を感じました。雨風強く、3時間30分で大会は打ち切りとなりましたが、最後の最後まで全力を出し切って、あおぞらチームはファミリーの部で2位となることができました。また、まごころチームもファミリーの部で8位、小学生チームも7位と大健闘の結果となりました。走っている人以外でも一生懸命に応援する姿、走り終わった人のもとに飲み物やタオルを渡す姿があり、みんながチームの為に一つになっていることを感じました。マラソンを通じて子ども達の成長と努力を知ることができ、良い行事となったと思います。

5 時間リレーマラソン

あおぞら保育士 宮原 徹

5 月 13 日、松本市で行われた 5 時間リレーマラソンに参加しました。後半はあいにくの天気となりましたが、参加児童はそれぞれ本番に向けた練習をしっかりと生かし、素晴らしい走りを見せてくれました。今回、あおぞらホームの中高生チームと行動をともしましたが、学年や参加回数に関係なく、また走っている時も応援している時も、それぞれの思いや、それぞれの力、役割を存分に発揮し、結果として準優勝という素晴らしい結果を残すことが出来ました。その中でも特に印象的だったのが K 君と A 君です。K 君は今回サポート役として参加しました。自分から率先して走り終えて疲れた児童に飲み物やタオルを渡したり、一生懸命走る児童を大きな声で応援したりしました。走者としての参加ではありませんでしたが、自分の役割をしっかりと果たし、影の功労者となりました。最終的にチームの一員として準優勝の喜びを一緒に分かち合えた姿は大変素晴らしいと思いました。A 君は高校の部活もあり、夕方の練習にはあまり参加できませんでした。また部活での軽い怪我もあり前日まで様子を見ての参加となりました。しかし、当日の他の児童の活躍やチームの雰囲気に押され、最終的に 3 回出走しそれぞれ、立派にタスキをつなぎました。最終走者となり、時間いっぱいまで全力で走る姿や、苦しいなかでも最後には皆と一緒に肩を抱き合ってゴールした姿は大変誇らしいものでした。それぞれの児童が気持ちを一つにして全力で走り抜け、チームとしての団結と、それぞれの児童が輝き、自信が付いたリレーマラソンとなりました。

松本 5 時間リレーマラソン

まごころホーム 橋本雅

5 月 13 日に松本で行われた 5 時間リレーマラソンに参加しました。今年は、あおぞらチーム、まごころチーム、小学生チームの 3 チーム出場しました。私自身初めてで不安がありましたが、まごころチームで走らせて頂きました。当日までの間、子どもと一緒に 1 秒でも速くなるよう日々の練習に励みました。子ども達から「〇分台で走る」や「前の日よりも速く走る」と言った声が沢山聞こえ、またタイムが速くなくても諦めず走りぬく姿、全力で走る姿に私自身背中を押される毎日でした。前日には、ミーティングをして当日に備えました。

当日、天気があいにくの雨で 3 時間半のリレーマラソンになりました。コースの下見をし、準備体操をしました。スタートをして 3 時間半みんなで走りぬく事ができました。結果は、8 位で 33 周でした。それ以上にチームとして仲間と協力する事や達成感を味わう事ができました。私自身何度も苦しい場面がありましたが、子ども達の本気や全力で走りぬく姿、サポートする姿に背中を押され走りぬく事ができました。子ども達から「5 時間やりたかったね」「また出たい」などの声も聞こえました。行事を通して沢山学ぶ事ができました。この経験を生かし日々の生活に繋げていきたいです。

松本 5 時間リレーマラソン

まごころホーム 井上はな

5 月 13 日に、松本 5 時間リレーマラソンが開催されました。私は、まごころチームの一員として参加させて頂きました。当日はあいにくの天気でしたが、皆、雨に負けず一生懸命走っていました。今回の大会で印象に残ったことがあります。それは弱音を吐く子がいなかったことです。練習期間中は「もう走りたくない」「きつい」などといった言葉が時々聞こえてきましたが、本番は「もっと走りたい」「まだ行ける」といった前向きな言葉が多く聞こえてきました。途中雨が激しくなっても襷を渡すまで全力で走ったり、大きな声で仲間を応援する子供達の姿を見て、私も負けてられないぞという気持ちになりました。結果は周回コースを 33 周、距離にして 39 km 以上皆で走ることができました。

今回の行事を通して嬉しかった事は、練習中から沢山の子と関わったことです。走り方や準備体操をアドバイスしたり、タイムを競い合っって切磋琢磨することができました。

これからの行事や日々の生活でも、自分から話かけて少しずつ関係を築いて行きたいです。

あおぞらホーム日より

あおぞらホーム 近藤誠志郎



新年度も早いもので 2 カ月が終わろうとしています。子どもたちはそれぞれ進学、進級した場所で目標に向かって頑張っています。5 月には各高校、中学ともにテストがありました。中学 1 年生にとっては初めてのテストとなり、中学 3 年生にとっては進路選択のための重要なテストになります。今回の結果をしっかりと受け止めて、来月のテストでは今回よりも少しでもいい点数が取れるように努力を続けてもらいたいです。

5 月 20 日にホーム食として餃子づくりをしました。ニンニクやニラを細かく切るところから始め、餃子の皮にひとつひとつ丁寧に包み、ホットプレートで焼き上げます。みんな滅多に料理することのない男の子たちなので苦戦する姿もありましたが、協力的に作業しており、上手に作る事ができました。味も見た目も良く、餃子づくりは大成功に終わりました。

6 月の始めには小学校で運動会があります。5 年生の Y 君はリレーの選手に選ばれ、毎日張り切っって練習しています。同じく 5 年生の R 君や 2 年生の S 君も運動会が近づくにつれてそわそわしている様子があります。本番ではみんなの活躍する姿を見るのが楽しみです。中学、高校生で部活

<http://enpukui-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

動をしている子供はいよいよ夏の大会の予選が始まっていきます。3年生は最後、1、2年生からしても3年生と出場する最後の大会になる部活動もあります。悔いの残らないよう普段の練習の成果を発揮し、最後まで全力で頑張ってもらいたいです。だんだん暑くなってきましたが、そんな暑さも吹っ飛ばすような元気で、子ども達と充実した毎日を送っていきたいです。

『まごころホームだより』

まごころ保育士 竹内早季

5月も終わり、1学期も折り返しとなりました。進級、進学した子ども達も徐々に新しい環境に慣れてきた一方、疲れも見え始めているのでホームでも体調管理を気をつけています。小学生達は6/2の運動会に向けて毎日長時間の練習を頑張っています。リレーの選手に選ばれ張り切っていたり、はじめての騎馬戦でドキドキしていたりと毎日どんな風に練習しているのか教えてくれるので、当日見に行くのが本当に楽しみです。また、中学生と高校生は今年度初めての中間テストを迎えました。毎日学習計画を立て、みんなそれぞれ自分の目標点に向かって本当に良く頑張っていました。中には部活をやり、塾に行き、園でも学習する子もいて、その子は前回より50点も総合点が上がったと喜んでいました。1年生の二人も初めてのテストに緊張しながらも毎日頑張っていました。次回ももっと点数をとりたい！と意欲があるので、私達もしっかりとサポートしていきたいと思いました。

また、先日ホーム食行事がありました。まごころのみんなで協力して、お昼ご飯に手打ちうどんとてんぷら、デザートにパンケーキを作りました。手打ちうどんは生地から作り、ビニール袋に入れて足で踏んでこねました。感触に歓声をあげ、歌いながら踏んでいる子どももいました。伸ばしたり、切ったりとみんな和気藹々と楽しい雰囲気で作ることができました。てんぷらも中高生が中心で調理してくれて、さくさくのおいしいてんぷらができました。パンケーキも小学生が積極的に手伝ってくれています。最初から最後までみんなで協力して、美味しい食事を作ることができ、大満足でした。子ども達も次はどんな行事があるのかとても楽しみにしています。



調理室だより

調理員 宮沢 まき江

一年の中で最も清々しい芽吹きの子吹きの季節となりましたが、今年は異常な程の日々の温度差に驚いております。そんな中でも子ども達はそれぞれが進級し、変わった環境にもすっかり馴染み元気に生

(平成30年6月10日発行 月刊「円福」503号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

活しています。5月の誕生日の子どもは二名で、それぞれの希望のメニューを作らせて頂きました。7日 - 愛育園創立記念メニュー

・赤飯 ・すまし汁 ・エビフライ ・ほうれん草の和え物 ・オレンジ

12日 - 母の日メニュー

・茶碗蒸し ・ささみチーズフライ ・ポテトサラダ

この日は夕飯前に女性職員に子ども達からメッセージ入り色紙と心のこもった手作りのヘアゴムとともにかわいいお花の置物を頂き、感謝と感動で胸がいっぱいになりました。

19日 - よもぎ団子作り

小学生の子ども達と二班に分かれ作りました。できあがった物はみんなのおやつになりました。

20日 - ホーム食

あおぞらホームは手作り餃子・玉子スープ、まごころホームは手打ちうどん・天ぷらデザート。それぞれ9時から準備に取り掛かりました。私はまごころホームに入り、お手伝いさせて頂きました。子ども達はワーワーキャーキャーと楽しそうにしながら、うどんを手で捏ね、足で踏み、寝かせてから、のし棒で延ばし全員で切り、太い麺、細い麺と本格的な手打ちうどんが出来上がりました。天ぷらはホームの先生と高校生が中心となり、盛り付けはみんな手際よくやり、豪華な昼食ができました。昼食はホームごとにあおぞらは談話室、まごころは食堂にていただきました。私達調理はお手伝いにまわり、大変御馳走になりました。とても楽しいひとときでした。

これからは梅雨に入り、特に衛生面では最も気を付けなければならない時期になりますので、気を引き締めながら、子ども達の為にますます美味しい食事を作り続けたいと思います。

愛育園の職員になって

あおぞらホーム 倉島誠

今年度より愛育園職員の一員として働かせていただきます、倉島誠です。よろしくお願いいたします。

3月末の研修から働き始め、気がつけば1ヵ月が過ぎました。最初は「お兄さん」と呼んでくれていた子ども達も、今では「先生」と呼んでくれるようになりました。この1ヵ月は、先生方・子ども達の名前、業務内容、園のルールなど覚えることは多く、あっという間に感じる日々でした。まだまだ緊張や不安と向き合いながら先輩方職員の後を付いて回っている毎日です。

私は、小・中・高・大と16年間野球を継続してやってきました。野球を通して、人間関係や礼儀、向上心や精神力など多くの事を学びました。この経験は、園の中でも生かせる所があるのではないかと感じています。今年1年「全力主義」をモットーに、たくさん子ども達と遊んで、一緒になって汗をかき、心身ともに成長していきたいと思っています。

どうか、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。